



企業経営をトータルサポートする

October 2010

# 長野法人会報



経営者シリーズ | トップかく語りき

Yoshimi Tanaka

## 田中 良実氏

田中機械株式会社  
代表取締役社長



田中機械株式会社

上高井郡小布施町小布施1170  
TEL 026-247-2063 FAX 026-247-5213  
設立 大正8年8月  
資本金 1,000万円

社内で回覧しましょう！

## 仕事は楽しく面白くなければ続かない。

「食とエコに関わるすべてを応援する！」を旗印に農機具業界に風雲を巻き起こしている「機援隊」(田中機械の愛称)。率いるのは田中良実社長。大正8年創業以来一貫して農機具に携わる同社の4代目だ。

「当社は昭和40年代からメーカーのディーラーとして販売活動をしていました。しかし先代(現会長)はそれが本当に農家のためになっているのか疑問を持ち、平成4年にメーカーから株式を全取得し現社名に。僕はその翌年、高専卒業後すぐに入社しました。本当はしばらく外に出たかったのですが…」

しかし会社は父親世代の社員ばかり。「楽しくなかった」。さらに半年後、兄貴分と慕う先輩社員が「この会社には夢がない」と辞める。「すごくショックでした。と同時に、この業界を変えたい！」と本気で思った。その日から

遊ぶのをやめて仕事一筋になりました。先代から営業の何たるかを徹底して教わり、夜討ち朝駆けの営業活動にまい進。結果、売れに売れた。

「この喜びをみんなに伝えたい。そう思って翌年、僕と同世代の若者たちに声をかけ入社してもらいました。面白い仕事だから一緒にやろうよ」と。現在15人の社員(キャスト)のほとんどが田中社長(38歳)と同世代かそれ以下の若さだ。

田中社長の営業手法は「使い方の提案」。さらに農家の要望を受けてメーカーにオリジナル商品を作ってもら。それがまず地元農家に受け、ネットで情報公開すると全国から注文が舞い込んだ。

困ったのはメンテナンス。そこで販売先各地の同業者に呼びかけて「農機具ねっと」を立ち上げ、現地でメンテナンスしてもらうことにした。さ

らに共同仕入れ、オリジナル商品の販売、情報交換なども行い、ネットワークは全国155店まで広がっている。

自社サイトではお勧め商品や各種農機具情報、中古機情報などを発信。遊び心いっぱいの新聞「田中機械通信」も発行している。「ジャーナリストになりたかった夢も半分かなえられたかな(笑)」。最近では農家が畑で使う充電式ラジオや電動工具等の販売、顧客である地元農家のりんごの直接販売の橋渡しなど事業の幅も広がっている。

田中社長にとって、仕事とは「楽しくなければ続かない」もの。リーダーの条件とは「自分の使命を見つけ、覚悟を決めて自分が持つ力を発揮していくこと」。尊敬する人は「もちろん、坂本龍馬ですよ!!!」。

シリーズ 人・企業・サービス

人



この店にしかできないことを

近藤 義之さん

**須** 坂市で100年の歴史を持つクリーニング黒岩で、5代目の店主となるべく日々研鑽を積む近藤義之さん。パリッとしたYシャツ姿が何ともさわやかだ。

出身は栃木県足利市。自動車ディーラーの営業マンから一転、夫人の実家の後継ぎとして4年前に長野に移り住んだ。「初めは抵抗もありました。クリーニングは『出したら帰ってくる』ぐらいのイメージしかなくて。でも、この店は他と違った」。

早くて安いチェーン店が主流の中、地域に根差し、シミ抜きと着物に特化した丁寧なサービスを貫いてきた同店に、近藤さんは強い魅力を感じたという。以来、社長やベテランのパートさんから技を学び、腕を磨くクリーニング一筋の毎日。新しい技術を学ぶ勉強会があれば日本中どこでも駆けつける。

職人と商人、両方のやりがいを感じているという近藤さん。「シミ抜きもアイロンも、理想の形に仕上がると本当にうれしい。たとえ時間がかかってもお客様に喜んでもらえれば」。職人として確実に仕事をこなす一方、来店客の顔を見て直接交わす会話を重要視する。「大切な衣類をわざわざ預けて来てくださるお客様に、安心して気持ち良く利用してもらいたいです」。

地域との絆を深めながら、地道な努力で自身にも店にも磨きをかける。



有限会社 クリーニング 黒岩

須坂市新町529

TEL 026-245-1238 FAX 026-245-2503  
http://ckuroiwa.blog48.fc2.com/

企業



「プラザハウス川中島」来春完成！

旭サービス(株)

**S**-mile 観光でおなじみの旭タクシーは創業43年。山岸誠社長は現在、事業の総仕上げにと高齢者専用賃貸マンション「プラザハウス川中島」を建築中だ。「私の母はもうじき100歳ですが、自分のことは自分でできるほどピンピンしています。そんな元気なお年寄りを増やしたいんです」。

高齢者の孤独死が社会問題化している昨今、健常者でもお金があっても「心が寂しい」お年寄りが大勢いる。その受け皿になるべく「60歳以上の方専用のマンション」建築を思い立った。「みんなが助け合い、家族のように頼りになる安心管理システムを築きたい」。

本業がタクシー会社だけに、サービス内容はユニークだ。マンション1階にはタクシーの待機所を設け、24時間利用可能。入居者が病気やけがをした場合は、提携病院へ無料送迎する。また、同社の観光バスを利用し、花見や温泉など定期的にお楽しみバス旅行を実施。身体も心も健康でいきいき暮らしてほしいという山岸社長の願いがこもっている。

さらに、独身の証明があれば、家族でない男女でも同室の入居が可能。「私が承認すればOKです。いくつになっても恋をする方が健康ですから」。

3月1日入居開始、11月モデルルーム完成予定。現地見学は事前に連絡を。



旭サービス 株式会社

長野市大豆島西沖8-2

TEL 026-221-6849、090-3242-7771  
(山岸携帯)

サービス



いまだに「穴場」の美食処

喰切料理「良喜(よしき)」

**権** 堂アーケードから少し離れたビルの1階にある良喜は、創業30年を迎える。「コンセプトは居酒屋以上、料理屋未満。だけど出すものは料理屋に負けない、ってところかな」。店主の鈴木隆さんはこの地で開業以来、パブル、長野オリンピックの好景気を経験してきたが、基本姿勢は一貫して変わらない。

「料理の目先を変えるのは簡単だけど、無理して手をかけた料理はうまくない。お客に受けるのは『誰でもできそうなのに、家ではおいしく作れなかった』という料理ですね」。和食は東京での修業時代、基本の多くをまかないづくりで学んだ。ブリ大根などは当時、常連の政治家からお墨付きをもらったほど。

良喜の料理はどれも素材の良さが際立つ。魚をはじめ、食材はほとんど毎日市場に足を運ぶ鈴木さんの目利きによるものだ。店の名物「かにまんじゅう」は、ネーミングとはイメージの異なるおいしさが口コミで広がり、開業以来の人気一品となっている。

2人の子供を育てながら二人三脚でやってきた夫人の「何年たっても素人っばい」接客も人気の秘密。今はときどき娘さんも手伝ってくれ、店は家族的な雰囲気にあふれている。「ウチはいまだに穴場って言われるよ」と苦笑しながらも、日々おもてなしに全力を注ぐ。



良喜オリジナルの「かにまんじゅう」

良喜

長野市上千歳町1427-5

TEL 026-235-6710